

# ふらぐ

¥0  
TAKE FREE

この世界には  
ロマンがある

## 大島で使える 観光チケット

2,000円分が  
当たる!!

詳しくはウラ面を  
ご覧下さい。

新作漫画! 第2話!!

自分たちの想いを  
団体で実現する

ふらみさんに相談したら  
いいっちゃやない!?

部活動からNPOへ  
「北九州・魚部」

ひととまちとの交差点Vol.10  
伝えるチラシデザイン講座

# ふらみさんに 10日言ったら いいじゃない!?

ここは  
メイトム宗像  
NPOセンター

今日も悩める  
市民が  
相談に来ます

第2話

「自分たちの想いを団体で実現する」

あの…

ママをサポーターする活動をしたいのですが、どうしたらいいか…

具体的にどんな活動を考えていますか？

小さいお子さんのいるお母さんが気軽に参加できる講座を開催したくて

子どもと離れて自分のための時間をもつことで

心身ともにリフレッシュしたりお母さん同士が交流したりする場を作りたいんです

アキコさん 主婦

ミノリさん 主婦

「ナツコさんからここに相談したらいいじゃない」って聞いて

それでいらしたんですね

どうぞお掛けになってください!

※Vol.29で登場

子どもが小さいとなかなか自分の時間がありません

託児をお願いしたくても預け先を探すのは大変です

私も経験があります

だから活動時には「あすかりっこ」をしたいと考えているんです

「あすかりっこ」?

参加者を2グループに分けて

講座でリフレッシュするの

子どもたちの見守りを交代で行うんです

呼吸〜!

子ども預けてピラティス

後半見守りグループと交代

いいですね、アイデア!

「団体」として活動した方がいいと思うのですが、

何からはじめたらいいのかわからなくて…

確認ですが、その活動は市内のお母さんなら誰でも参加できますか？

はい！小さいお子さんがいるお母さんなら誰でも！

ふうふう…

「民間・非営利」

「公益性のある開かれた活動」

「活動の目的や内容が定まっている」

「難しいぞ」





団体の想いを言葉にする

講座やイベントの開催にあたって広く情報発信をする場合は、その内容だけでなく、団体の活動目的や想いも一緒に掲載しましょう。どんな団体なのかかわかれば参加者も安心ですし、団体のことを覚えてもらうきっかけにもつながります。団体の想いを言葉にする方法を下記ページで紹介していますので、ぜひ参考してみてください。

「団体のビジョンを  
13文字にまとめよう!」  
セミナーのレポート



情報発信をサポートします



宗像市の市民活動団体登録をすると、団体情報やイベント情報をメイトム宗像のホームページを通じて発信できます。また、メイトム館内やユリックスの掲示板へチラシを掲示することもできます。

団体登録について、  
詳しくはメイトム宗像  
ホームページを  
ご確認ください



無料相談DAY

これから活動をはじめたい方も、現在活動中の方も、今抱えているお悩みをNPOセンタースタッフに相談してみませんか?

■助成金申請相談

日時:9/24(木)  
①13:00~14:00 ②15:00~16:00

■団体設立・法人化相談

日時:9/30(水)  
①13:00~14:00 ②15:00~16:00

相談をご希望の方は、NPOセンターまでお気軽にお問い合わせください!

問合せ先

宗像市 市民活動・NPOセンター  
[運営]一般社団法人 PENTAGON  
TEL:0940-36-0311(平日9:00~17:00)  
MAIL:info@pentagon67.com

**法人格をもたない団体の一例**

**任意団体**  
→ 団体名を決めて活動をはじめ

**法人格をもつ団体の一例**

**NPO法人**  
→ 所轄庁の認証+登記、事務手続きに3ヶ月ほど要する

**一般社団法人**  
→ 定款認証+登記、事務手続きに1週間ほど要する  
法定設立費用は11万円ほど必要

「任意団体なら立ち上げもとてもシンプルです!」

「お二人が考えているのは任意団体のことかな、と!」

「お二人が団体の名前を決めて立ち上げる!」と決意されたその瞬間が団体のスタートなんです!

「よかった! もっと大変なのかと思ってた!」

**質問!!**

「団体にするとうとう良さがあるんですか?」

「一人から二人、二人から三人...」

「団体の想いに共感した人たちが集まることで活動の輪が広がるかもしれない」

「団体にする事で同じ想いをもつ人たちが気軽に参加できる場が出来ます」

「相談日も設けていますしいつでも気軽にお願いください!」

「じゃあまず団体名を決めるところから一歩進めてみる?」

「最初は大変かもしれないね」

「全力サポートします!」

「センターも」



# ひとまち交差点

宗像のまちで秘かに活動する魅力的な人。その「ひと」が「まち」と出会い、交わるきっかけを、ふらぐ編集部のアンドウが取材してきました。



ふらぐ編集部  
アンドウ



子どもたちとの思い出の写真



元気いっぱい!第18期漁村留学生



漁村留学センター「なぎさの家」

玄界灘と響灘の境に浮かぶ宗像市の離島「地島」。周囲 9.3km、人口約140人というこの小さな島では今年も5人の漁村留学生を迎え入れた。「漁村留学を続けることが地島小学校を守り、さらに地島を守ることに繋がっている」と語る前田さんにその想いをたずねた。

**アンドウ**：生まれも育ちも地島、地島から離れたことがないという前田さん。漁師になったのはいつですか？

**前田さん**：地島から水産高校に通わせてもらって、高校卒業後18才から漁師です。僕は3人兄弟の一番下なんやけど、兄も姉も島を出て就職してたから、地島の家を自分が継がないかなあという思いはあったかな。

**アンドウ**：2011年に前田さんが「漁村留学を育てる会」の会長になつたきっかけは何ですか？

**前田さん**：歴代の会長はずっと地島小学校の保護者がしてくれていました。前会長が辞めるつてなつた時、小学校の保護者が3人やったかな。それで、他の保護者はまだお子さんが小さかつたし、当時僕は小学校のPTA会長もしてたから、それならPTA会長と「漁村留学を育てる会」の会長を一緒に果たしてもらおうかなど。

**アンドウ**：それから現在にいたるまでの10年間、ずっと会長として漁村留学生を支えてきたんですね。

**前田さん**：そうですね。僕は9期生から会長に

なつたんやけど、翌年は「10周年記念同窓会」をやるうつことになって。それが終わったら、今度は留学生が暮らす「なぎさの家」の建て替えの話が出てきて、結局話がまとまるまでに3年くらいかかったかな。13期生の時に新しいなぎさの家での生活がスタートして、前の家の「お別れ式」もしたし、15周年記念もしたなあ。

**アンドウ**：なかなか会長を代わるタイミングがなかったんですね。

**前田さん**：いや、代わりたくなかつたんでしょね、僕がね。こうして節目節目にイベントをして、漁村留学の卒業生やその保護者が地島に来る機会をつくるようにしてるんですよ。留学生本人だけじゃなくその家族も地島のファンになってほしいからね。留学をきっかけに地島を知る人が増え、地島ファンが増えることは漁村留学の大きな成果の一つだと思うね。

**アンドウ**：島の子どもたちと一緒に漁村留学生も通っている地島小学校。島の人たちにとって小学校はどのような存在なのでしょう？

**前田さん**：地島には集落が2つあって、小学校がなかつたら交流することがない。小学校は2つの集落をつなげる大切な場所なんよ。あるのとないのとでは全然違う。漁村留学も含め、小学校は地島の元気のバロメーターやからね。それがなくなるといことは、それだけ島を守る力がなくなってる、島自体が衰退しとるといこと。だから

## 前田 浩昌さん 漁師



宗像市地島生まれ。漁師になって今年で36年目。2011年から「地島校区漁村留学を育てる会」の会長として漁村留学生を支援。2015年から「地島天然かもめ」のブランド化にも取り組んでいる。

ら、小学校を無くさんために、今後も漁村留学には力を入れていくし、できる限り続けていく。  
**アンドウ**：漁村留学を続けることが、地島小学校を守ることになり、そしてそれが地島を守ることに繋がっているんですね。

**前田さん**：子どもたちにとっても、1年間親元を離れて暮らす漁村留学は本当にいいと思う。誰でもできることじゃない。気持ちがないとできない。それだけの覚悟を3年生、4年生、5年生でするとよ。そこには敬意を表さないとかなと思う。1年経つたあとの子どもの成長はすごいよ。何かあった時に、ここでの生活は必ず役に立つ。人生いいことばかりやないとよ。人間関係で悩むことも挫折することもあるよ。でもその時に「1年間地島で頑張ったよね」って思い出すと思うよ。この経験は一生もの。そういう経験を子どもたちは地島でするんよ。

”あなたにとっての交差点は、どこですか？”

”「漁村留学を育てる会」の会長として子どもたちの成長をずっと見守ってきたこと”





# 第21 っぶめ

濃いめの顔と、気になる情報をキャッチする鋭い目線のタチバナが地域で取り組む活動取材してきました。

## 部活動からNPOへ

魚部の成り立ちは、1998年にまで遡る。当時、県立北九州高校の教師として勤めていた井上大輔さん(現理事長)が高校の生徒達と創部した。県内各地の水生物の調査や企画展示などを行い、その存在は地域にとってかけがえのないものに。部活動から団体へと転身するきっかけは、井上さんの他校への異動だった。なんとかして部を存続させたいとの声も多く、新たに任意団体として活動をリスタートすることを選択した。こうして2015年1月に任意団体「北九州・魚部」は立ち上がった。事務局長の工藤さんは団体と関わるきっかけについてこう話す。「最初は高校の部活動の部員として所属していました。それからしばらく経ち、社会人として働いていた時に井上先生から任意団体になるということで声をかけてもらいました」。

任意団体にしたことで市民に開かれた存在となり、かねてから活動に興味をもっていた市民が参加できるようになった。理事である内田貴子さんもその一人。

「高校の部活として活動していた頃から興味をもっていました。大人は参加できなかったの。その思いは胸の内にとまっていた。それからしば

# N部活動から NPOへ「北九州・魚部」

ザよぶ



ふらく編集部  
タチバナ

7月にレジ袋の有料化が義務付けられ、脱プラスチックの動きがようやく我が国でも進み出した。環境活動に取り組む団体の活動は幅広い。今回は北九州に拠点を置き、独自の視点でユーモラスな取り組みを進めるNPO法人北九州・魚部に話を伺った。

らく経った頃、任意団体になるということを知り、すぐさま団体に関わりたいと連絡しました。念願だった川辺での活動に参加したり、団体の運営にも関わるようになったり、今はバイオフィリアでパンやお菓子づくりも担当しています。

任意団体としてスタートして、約3年後にNPO法人格を取得。高校の部活動がNPO法人化するの全国的にも珍しい。

「団体設立時から法人格の取得は目標の一つに掲げていました。法人化に至るまでには、黒崎のNPOセンターで相談したり、主要メンバーとの協議を経て決めました。NPO法人が対象となる助成金に応募できることや団体としての信用性がメ

## 生物文化雑誌「ぎよぶる」

リットかなと感じています」と工藤さん。

魚部の活動は、水辺での生態系調査や啓発イベント、体験機会の提供を主軸とし、「ぎよぶる」を通じた情報発信や生き物文化発信拠点を掲げた「魚部カフェ・バイオフィリア」の運営まで幅広い。ぎよぶるは今年で9号目を迎えるが、その完成度は高く、市販の雑誌と比べても全く見劣りしない。その企画編集を理事長の井上さんがほぼ一人で行い完成させるといふから驚きだ。1冊が仕上がるまでに、およそ1年を費やすという。生き物や地域性に焦点をあてたユニークな視点と専門家の深い考察が入り混じった雑誌に仕上がっている。完成した雑誌は、全国に散らばる約350人の購読会員向けに送られるほか、一般販売も行う。また、まるっとひとつの生物を特集する別冊をこれまで3冊発行している。その一冊「特盛山椒魚本」は2019年にクラウドファンディングで224万円を集め発行した。魚部がこれまで作った雑誌は、バイオフィリアやWEBサイトなどから購入できる。



生き物文化発信拠点「魚部カフェ・バイオフィリア」

次ページにつづく

## プロフィール 魚部事務局長・バイオフィリア店長 工藤 雄太

北九州市生まれ。1988年生まれ。北九州高校時代に魚部の部員として関わったのち、任意団体設立後に団体の運営に携わることに。井上理事長と共に団体の軸を支える。



左が事務局長の工藤さん／右が理事の内田さん



生物に関する書籍を自由に読むことができる



写真やイラストが目を引く「ぎよぶる」ができる

## NPOによるカフェ運営

2019年12月に「魚部カフェ・バイオフィリア」がオープンした。店名はアメリカの昆虫学者E・O・ウィルソンが提唱する「BIOPHILIA」という概念から付けられた。店内には、水生生物を観察できる水槽やギャラリー、雑貨販売なども、生き物好きにはもちろんのこと、関心がない人にも優しい空間が魅力的。カフェという機能がメインではなく、社会への発信空間というコンセプトが実にNPOらしいところだ。店舗づくりは部員と共に自分たちの手で進めた。照明にバケツを利用したり、壁に生き物の絵を描いたり遊び心も満載だ。このカフェ立ち上げのプロジェクトは工藤さんが中心となって進めた。

「魚部の事務所である、魚部基地は誰でもふらっと立ち寄れるような空間ではないことを課題と感じていました。そこで、気軽に立ち寄れる開かれた場所を作りたいと思い、カフェ運営を行うことを決めました。店内では、ギャラリーなど



生き物への関心を高めてもらうための観察できる水槽を設置



ギャラリーがあり、雑貨の販売も行っている

のほか、生物の専門家の話を聞けるような対話の場づくりなども行っています。生き物に興味がある人はもちろん、そうでない人が関心をもつきっかけになればと思います」と話す。

新型コロナウイルスの影響により一時店舗は休業していたが、現在は再開し工藤さん含む3人のスタッフで運営を続けている。「オープンして間もなく休業せざるを得ない状況となりましたが、少しずつカフェ運営も軌道に乗せていければ」と工藤さん。7月からはうなぎの種の存続を社会に投げかけるために、どじょう蒲焼井という新たな試みもスタートさせた。絶滅が危惧されるうなぎに代わり、どじょうを食べようという社会へのメッセージや話題性もあり、マスメディアにも多く取り上げられた。ユニークな魚部の活動は、独自の視点から環境問題に目を向けるきっかけと気づきを与えてくれる。

## Furagu News

# まちづくりのすゝめ

市民活動やまちづくりに必要な要素を学ぶ全5回の講座を実施します。  
第1回目は情報発信編。チラシデザインのコツをプロから学びます。

### 伝わるチラシデザイン講座

**開催日** 9月30日(水)18:30~20:30

**定員** 20人(先着順)

**講師** 毛利清隆さん(Mohri Design)

**参加費** 500円

**会場** メイトム宗像202会議室

**申し込み** こちらのフォームよりお申込みください  
9月10日(木)より受付開始



# アンケートプレゼントコーナー

大島で使える  
“おおしま旅キャンペーン観光チケット”  
2,000円分をプレゼントします。

キャンペーン詳細はこちらのサイトから ▶ <https://campaign.munakataoshima.com>

※チケット有効期限が11月30日(月)までとなっております。ご了承ください。

右記QRコードまたはURLからアンケートに答えていただいた人に抽選でプレゼント! 当選者の発表は10月下旬、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

抽選で  
**2名**

応募締切は  
2020年10月15日(木)  
アンケートはこちら!!



¥0 TAKE FREE



PENTAGON 宗像

ふらぐバックナンバーはこちらから!

<https://pentagon67.com>

